

ひとり親家庭への支援施策のあり方に関する専門委員会

提出資料

ひとり親家庭等の在宅就業者支援事業

紹介事例

石巻市・北海道

平成25年7月8日（月）

参加人：ハンド・イン・ハンドの会

ひとり親家庭等の在宅就業支援事業（安心こども基金）実施報告

平成24年5月31日時点

自治体名：宮城県石巻市

事業名：石巻市ひとり親家庭等在宅就業支援事業委託業務

事業実施期間：平成23年 8月 ～ 平成25年 3月（予定）

対象者：市内に居住する者であって、次の要件のいずれかに該当する者

- (1)母子家庭の母及び父子家庭の父で20歳未満の子と同居し生計を一にしている者
- (2)身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の所持者
- (3)高齢者（60歳以上）

募集人数：50人 応募総数：167人

（内訳：母子家庭112人、父子家庭0人、寡婦0人、高齢者34人、障害者21人）

訓練開始人数：50人

（内訳：母子家庭45人、父子家庭0人、寡婦0人、高齢者2人、障害者3人）

訓練修了人数：47人

（内訳：母子家庭43人、父子家庭0人、寡婦0人、高齢者1人、障害者3人）

事業受託者：石巻在宅就業支援コンソーシアム

代表事業者：石巻IT・測量業協同組合

構成企業；メディアテック株式会社、株式会社デジタルプレイス

株式会社東京システムエージェンシー石巻営業所

業務開拓の方針	
1)	<p><b>将来も継続して就業可能な業務の開拓</b></p> <p>本事業終了後も継続就業することを目標に、安定した需要が見込まれる業務や、自立型ビジネスの構築による新規業務を中心に開拓している。</p>
2)	<p><b>首都圏など広範囲での業務の開拓</b></p> <p>石巻市内の企業・自治体だけでは市場規模が小さく、被災により、なお一層厳しい状況にあることから、宮城県内はもとより、首都圏も含め、広範囲に業務を開拓している。</p>
3)	<p><b>在宅雇用につながる業務の開拓</b></p> <p>在宅就業は一般的に収入に変動があり、目標収入を得るには安定性に欠けることが考えられる。一定の収入を確実なものとするためには、在宅雇用が望ましく、在宅就業から在宅雇用につながる業務開拓を推進している。</p>
4)	<p><b>専門的な知識、技能を習得して収入を更にステップアップできる業務の開拓</b></p> <p>研修で培われたスキルに加え、更に専門的な知識を習得、あるいは資格を取得し、在宅起業や新たな企業への就業、雇用に結びつくよう、更にステップアップするための業務開拓も視野に活動している。</p>

## 開拓した業務の内容

1	<p><b>DTP 業務(無料情報誌の制作発行) 自立型事業</b></p> <p>1) 石巻在宅就業支援センターが発行人となり、無料情報誌「ございん石巻 Go the in ishinomaki」を創刊。広告収入で運営。3月から毎月一万部を配布。情報通信環境の悪い仮設住宅中心にコミュニケーションツールとして認知されつつある。同情報誌の発行業務について、応用研修でDTPを受講している受講生10名を対象に業務を切り出している。対象受講者数5名、時給換算で月額3万円から5万円程度の収入増を見込む。最終的に発行の全てを受講生に委ねる。</p>
2	<p><b>データ入力業務 請負業務</b></p> <p>1) 石巻IT測量業協同組合で石巻市の償却資産データ作成業務を受託。受講生の一部にデータ入力業務を依頼した。入力単価一件につき20円で2名の受講生が従事。期間は概ね1月～2月の2ヶ月間。サテライトオフィスで作業。個人情報保護の為、サテライトオフィス「メディアテック(株)」内「石巻在宅就業支援センター」で作業。</p> <p>2) メディアテック株式会社が石巻市から受託した各種健診申込データ作成業務の一部を受講生に依頼した。受託金額中47万円程度を作業量に応じて受講生に支給。作業期間は概ね1ヶ月間。サテライトオフィスで作業。個人情報保護の為、サテライトオフィス「メディアテック(株)」内「石巻在宅就業支援センター」で作業。</p> <p>3) メディアテック株式会社が石巻専修大学から受託した被災状況調査集計業務のデータ入力業務を受講生の一部に依頼した。受講生委託金額24500円。個人情報保護の為、サテライトオフィス「メディアテック(株)」内「石巻在宅就業支援センター」で作業。</p> <p>4) 株式会社デジタルプレイスが受託した被災家屋のマッピング業務の一部を受講生に委託した。受講生委託金額89000円</p> <p>5) 株式会社愛和サービスから不動産競売物件情報のデータ入力業務について、被災地支援の観点から本事業受講者への委託要請あり。一件あたり、2000円程度のデータ入力業務</p>
3	<p><b>ECサイト構築運用管理業務 自立型事業</b></p> <p>1) 石巻在宅就業支援センターが開発するインターネット販売「ございん石巻 Go the in ishinomaki 24年7月20日オープンに向け、出品者、出展者を募集中。震災により、店舗等を失った地元中小事業者に需要がある。受講生には、商品管理、ユーザ(販売・出品者)顧客(購入者)管理業務を委託する。対象者数6名時給換算で月額3万円程度の収入増を見込む。最終的には同サイトのすべてを受講生に委ねる方針。</p>
4	<p><b>ホームページ(Webサイト)制作業務 自立型事業</b></p> <p>1) 一般的に動的なホームページ等の開設には、HTMLほか、Webシステムに通じる高度な知識を必要とすることから、CMS等を利用して企業紹介地元企業に提案している。導入初期費用を3万円程度に設定していることから、受講生に紹介。センターで構築時の支援を行う。ページ等を簡易に構築できる仕組みを提案。受講生でも構築可能な業務内容を被災により実店舗等を失った</p>
5	<p><b>CADデータ作成業務 請負業務</b></p> <p>1) 株式会社OES(土木建設コンサルタント)からCAD平面図、縦断面図、横断面図、構造図の図面修正依頼あり。総額月20万円を受講生に委託の予定。</p>

## 地域情報誌『ございん石巻』～Go the in Ishinomaki～

### 概要

発行部数 10,000部  
発行日 毎月 20日  
発行形態 A4 全24頁 無料配布  
編集発行 石巻在宅就業支援センター（石巻IT・測量業協同組合）  
住所 石巻市開成1-20（メディアテック株式会社内）  
電話 0800-800-3384  
FAX 0225-93-2055  
メール [gothein@i-zaitaku.com](mailto:gothein@i-zaitaku.com)  
URL <http://www-go-the-in.com>

### 発刊の経緯

地域情報誌の発行は元々、石巻IT・測量業協同組合加藤理事長の事業構想にあったものです。誌面の作成において作業場所の制約を受けないことから「ひとり親家庭等在宅就業支援事業」を受託するに当たって、DTPに必要なスキルを習得した受講者に在宅での作業を委託し、将来的には、発行運営のすべてを本事業の修了者に委ねる構想でスタートいたしました。

なぜ、紙媒体による情報誌なのか、という点については下記の理由が上げられます。

情報通信網の整備とともに、インタラクティブな情報環境が整い、紙媒体による情報発信は衰退の方向にあります。

合わせてインターネットの普及によって情報は「ただ」（厳密には、通信事業者との契約が必要なインターネット環境や閲覧のための機器等が必要な有償サービスですが）無料という時代を迎えています。

こうした中であって、あえて紙媒体による情報配信に取り組んだ背景には、高速通信網が広く張り巡らされ、誰もがその恩恵に授かる環境が整えられつつある一方で、技術革新著しいデジタル機器の操作等、ITリテラシー格差による情報格差のボトルネックがあります。

とりわけ、2011年3月11日の東日本大震災で地域コミュニティが崩壊した当地域においては、これら、情報通信手段を失ったうえに、新聞購読(有料)等もままならず、今なお、情報は市報、あるいはTV、ラジオに限られてしまっている方々が少なくありません。

こうした背景から、地域の情報を共有し、失われたコミュニティを回復していくうえで、閲覧の為の環境を必要とせず、容易に地域情報を伝える無料情報誌という紙媒体の必要性を強く感じ、発行に至ったものです。



左からHさん、Wさん、Tさん

制作にあたっては、「石巻市ひとり親家庭等在宅就業支援事業」においてビジネスの基本やコンピュータ操作の基礎を身につけ、応用研修でDTPに必要なアプリケーションソフトウェアの操作を習得した方々が携わっています。

受講者には、作業環境として、これらアプリケーションソフトウェアがインストールされたノートパソコン及び、自宅における作業を可能とするインターネット環境を貸与しております。

創刊時においては、元新聞記者等、実際に取材から紙面製作に携わった経験を持つスタッフやDTP技術者の助言を得つつも、受講者が企画の段階から誌面構成に携わり、取材テーマの取り決めや取材先へのアポイントメントを行い、写真撮影から取材、執筆、校正校閲、配布まで、印刷を除いた全ての工程を分担して行っています。

H. H枝さん（40代）は、取材や紙面製作を担っています。かつては、石巻市の第3セクターが主催する料理教室で約12年間、講師を務めていました。取材や文書作成の経験はまったくありませんでしたが、本事業でDTPアプリケーションツールの使い方を習得し、スキルを活かして誌面づくりを行っています。

「初めての取材は『匠（たくみ）』という企画で樹木医の先生にお話を伺ったことです。初めての（取材）経験なので、不安ももちろんありましたが、自分の知らない世界を知ることが出来るので、とてもやりがいを感じました」



取材、執筆、誌面構成を担当するH. H枝さん

W. R加さん（30代）は、取材と校正校閲を担当しています。以前は精肉店で惣菜を担当していました。過去にDTPの経験はありません。本事業ではホームページ制作の技能習得に取り組んでいましたが、共通する制作ツールの技能を活かして情報誌制作に携わっています。

「初対面の方とお話するのが苦手なので、研修では、取材が必要な情報誌制作（DTP）ではなく、ホームページ制作を選択しました。取材は頑なに拒否したのですが、いつの間にか情報誌の取材をやって（やらされて）いました。（笑）」

「よりよい誌面構成を考えて取材の前には、質問を準備したり、取材対象に関する事前のリサーチを心がけています。」

「はじめのころは、何回も原稿を書き直しさせられていましたが、最近は、逆に戻されない（直されない）ことが不安です。（笑）」



取材、執筆、校正校閲を担当するW. R加さん

T. S子さん（30代）は、水産会社で細菌検査を行っていました。情報誌制作は初めての経験です。

「応用研修では、ECサイト構築を学びました。情報誌制作では、広告に関する業務に携わっています。誌面をご覧いただいた方からぜひ広告を載せたいと申し込まれることもあります。広告収入を財源とした無料情報誌なので、広告主様とのやり取りはセンシティブです。」



経理、事務を担当するT. S子さん

Hさん、Wさん、Tさんの3名に数名を加えた総勢7、8名のスタッフが、印刷を除いた企画から配布までを請け負っています。

創刊から一年が過ぎた今日、仮設住宅の避難生活者の中には「ございん石巻」が届くことを心待ちにしている方々も増えてきました。

「待っていてくれる人がいると思うとやりがいがあります」（W）

「仮設住宅がどんどん空いてきています。みなさんそれぞれの生活を取り戻しているのではないのでしょうか」（H）

今のところははまだ、石巻在宅就業支援センター（石巻IT・測量業協同組合）スタッフが、誌面制作や広告掲載依頼等、運営全般にわたってサポートを行っています。よって、今後は、本事業修了者による完全な自立運営が課題になりますが、『無料』情報誌ゆえ、運営財源は広告収入、広告集めの営業が越えなければならないハードルとなっています。

※ご本人の了解を得て顔写真を公表しています。

(HIT提供)

### 北海道における在宅就業支援事業の実施状況について

#### 1. 受講者数

実施期間	期	受講者数
平成 22 年度～23 年度	1 期～4 期	854 人
平成 24 年度～25 年度	5 期・6 期	360 人

#### 2. 訓練期間

実施期間	期	基礎訓練	応用訓練 (OJT)
平成 22 年度～23 年度	1 期～3 期	6 カ月	最大 10 カ月
	4 期		最大 9 カ月
平成 24 年度～25 年度	5 期・6 期	4 カ月	12 カ月

#### 3. 1 期生～4 期生の状況について

##### 1 期生～4 期生 (H22～H23 年度) の状況

単位: 人

	IT活用等による在宅就業支援事業				在宅ワークサポートセンター		
	当初在籍数	辞退者数	終了不可者数	修了者数	修了者数 (再掲)	当初登録者数	H25年6月現在
ひとり親	538 100.0%	132 24.5%	13 2.4%	393 73.0%	393 100.0%	237 60.3%	194 49.4%
障がい者	316 100.0%	65 20.6%	7 2.2%	244 77.2%	244 100.0%	156 63.9%	138 56.6%
身体	164 100.0%	29 17.7%	2 1.2%	133 81.1%	133 100.0%	85 63.9%	73 54.9%
精神	152 100.0%	36 23.7%	5 3.3%	111 73.0%	111 100.0%	71 64.0%	65 58.6%
合 計	854 100.0%	197 23.1%	20 2.3%	637 74.6%	637 100.0%	393 61.7%	332 52.1%

単位: 人

	IT活用等による在宅就業支援事業				在宅ワークサポートセンター	
	当初在籍数	辞退者数	終了不可者数	修了者数	当初登録者数	H25年6月現在
ひとり親	538 63.0%	132 67.0%	13 65.0%	393 61.7%	237 60.3%	194 58.4%
障がい者	316 37.0%	65 33.0%	7 35.0%	244 38.3%	156 39.7%	138 41.6%
身体	164 19.2%	29 14.7%	2 10.0%	133 20.9%	85 21.6%	73 22.0%
精神	152 17.8%	36 18.3%	5 25.0%	111 17.4%	71 18.1%	65 19.6%
合 計	854 100.0%	197 100.0%	20 100.0%	637 100.0%	393 100.0%	332 100.0%

※在宅ワークサポートセンターは、平成 24 年 4 月 1 日開設



#### 4. 訓練内容 (参考)

	基礎訓練	応用訓練
1期～3期	<b>【ABC コース共通】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Pro.メール研修</li> <li>・ タイピング</li> <li>・ ビジネス研修</li> <li>・ PC 基礎</li> <li>・ インターネット基礎</li> <li>・ PC 基礎</li> </ul> <b>【A コースのみ】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報検索</li> <li>・ 執筆基礎</li> <li>・ サイト更新</li> </ul>	<b>【1期～3期】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サイト更新基礎</li> <li>・ サイト更新応用</li> <li>・ CR&amp;リサーチ</li> <li>・ facebook 運営</li> <li>・ 電子書籍作成</li> <li>・ インターネット活用応用コース</li> <li>・ 音声起こし</li> <li>・ 企画・プレゼン資料作成</li> <li>・ ライティング</li> <li>・ グラフィック作成・基礎</li> <li>・ グラフィック作成・応用</li> <li>・ エクセル応用</li> <li>・ 管理者訓練</li> </ul>
4期	<b>【ABC コース共通】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ IT 技術に関する基礎知識</li> <li>・ マイクロソフトオフィスの基礎的操作方法</li> <li>・ 在宅就業スキル研修</li> <li>・ Web 制作基礎</li> </ul>	<b>【1期～4期】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画像エントリー</li> <li>・ Web 制作</li> <li>・ 土木設計電子納品入門</li> <li>・ 会計入力</li> <li>・ GIS 基礎・模試採点</li> <li>・ GIS 応用</li> <li>・ 土木計画業務支援入門</li> <li>・ 土木設計 CAD 製図入門</li> <li>・ 道路管理データ作成支援入門</li> <li>・ DTP</li> <li>・ 観測記録・資料の電子化</li> <li>・ Web 画面メンテナンス</li> <li>・ サイト投稿</li> <li>・ 画像システムによるデータ入力</li> <li>・ Web 素材作成</li> <li>・ office 復習</li> </ul>
5期・6期	<b>【AB コース共通】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PC 基礎</li> <li>・ Word2010</li> <li>・ Excel2010</li> <li>・ PowerPoint2010</li> <li>・ Web 制作</li> <li>・ 情報検索</li> <li>・ ビジネススキル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DTP</li> <li>・ WordPress で構成する最速 Web サイト制作</li> <li>・ WEB 制作応用</li> <li>・ WEB 画面メンテナンス</li> <li>・ 観測記録・資料の電子化</li> <li>・ 会計ソフトを用いた記帳代行業務</li> <li>・ 土木設計 CAD 製図入門</li> <li>・ 土木設計業務電子納品入門</li> <li>・ 土木計画支援入門</li> <li>・ 道路管理データ作成業務支援入門</li> <li>・ GIS 基礎・応用</li> <li>・ データエントリー</li> </ul>

事例1 30代 女性（ひとり親） 子ども1人（訓練開始時 小学3年生）
-------------------------------------

**【訓練開始前の生活状況】**

子どもが幼稚園の頃、「預かり保育」を利用して仕事をしていた。保育園ではなく幼稚園ということもあり、働いているお母さんが少ない状態で、子どもは自分だけが預けられる状況にあることにストレスを感じていたようだ。ある日、幼稚園の先生から、子どもの様子がおかしいと聞かされ、子どもに尋ねたところ、爆発したように不満を口にした。子どもは、お母さんが大変だからと、気を使ってニコニコしていたということを知り、ショックだった。「預かり保育」は料金が高く、お金の面ばかりか、子どもに心労を与え、お互いによくないと思い、仕事を辞めざるを得なかった。子どもが幼稚園の時間内で仕事をするか、仕事を辞めるかの二択しかない中での決断だった。

仕事を辞めてからは、ハローワークに通い続けたが、送迎も含めて子どもが幼稚園に行く10時～13時での仕事はなかった。それでも、ハローワークに通い続け、履歴書に書けるようにと、パソコンスクールに通い、スキルアップと資格取得を目指し、仕事に活かせるように、Excelに特化して勉強した。

関西出身で、親戚や近所に子どもの面倒をみてくれる知り合いもいなかった。土日は、子どもが家にいるため、平日の仕事をつないでいた。子どもが小学生になり、学校からは早く帰宅するので、まともに仕事に出ることができず、生活は、児童扶養手当だけがたより、大変苦しいものだった。

**【訓練への参加】**

友人から聞いてこの事業を知った。確認のため、自分で道庁に電話し、応募した。しかし、応募人数が多く、1期から3期で参加決定にならず、諦めかけたところで、4期の募集があることを知り、この事業への参加が決定した。

<b>【補足説明】</b> 本事業の開始時は、300人の定員（1期から3期）で応募をしたところ、1,200人近くの応募があった。ニーズがあることがわかり、急きょ、北海道としては、定員数550人を拡大した。
--

**【訓練で得たこと】**

訓練開始前は、勉強内容についていけるかどうか、不安だった。基礎訓練が6ヵ月、応用訓（OJT込み）が9ヵ月。OJTでは、「データエントリー」「GIS」「CAD」を選択した。クラスの仲間ともメールを通じてやり取りでき、集合研修でも話が弾んだ。同じ環境の仲間がいるということは心強く感じた。この事業によって、ひとり親でも自信を持つことができ、子どもを抱えてパソコン教室にも通えない状況を改善してくれた。

訓練期間中に、一番身についた事は、「自分の力で調べることができるようになったこと」だ。訓練手当があったので経済的にも助かったが、手当をもらっているのだから、ムダにできないという思いもあった。楽しくスキルアップもでき、何よりも、自分の気

持ちに変化が生まれ、前向きになったことは大きい。これまでは、他者のせいにしてきたことも自分で考え、調べるようになり、生活にはりがでてきた。

【補足説明】 訓練時、基礎訓練ではクラス制を敷き、毎朝、クラス担任からのあいさつで授業を開始した。週に1回、クラスルームに「テーマ」を出し、自由な意見や考えを書いて提出するなどの工夫をし、パソコン訓練だけではないテーマで意見を書いてもらった。応用訓練ではクラスは解散したが、OJT ごとにできるだけ集合研修を取り入れ、発注者とも顔を合せ、直接質疑ができるようにすることで、意欲喚起に努めた。また、納期厳守の必要性を理解してもらった。

集合研修では、PC 訓練のほか、コミュニケーション交講座や講演会を組み合わせるなど、訓練生の自覚と意欲の向上を図ることとした。

#### 【在宅ワークの開始後】

訓練修了後は、「在宅ワークサポートセンター」に登録。ここで、聞いていた宅ワーカーの現実を知ることにもなった。最初の仕事はアンケートデータの入力だった。自分の中では、訓練開始前から、そして訓練期間中にもスキルアップをしたので、もっと単価の良い仕事があるかもしれない、という期待感があった。しかし、現実はそうではなかった。スキルがあるだけで単価の良い仕事ができるならば、みんな在宅ワーカーになっている。あくまでも正業の補完の仕事、という位置付けた。

平成24年度の事業において、在宅トレーナーをしてみないか、という連絡があり、挑戦してみようと思い取り組んでいる。在宅で訓練を受ける方々に、先輩の立場から指導や進捗管理、メールの見守り等を業務として行っている。毎日、5時から9時の時間帯を基本としている。同じ訓練生だった経験を活かし、理解が十分ではない部分や落ち込んでいる時の声かけも気をつけている。応用訓練の検品も携わり、他者の役に立っている実感を得て、月5,6万円の収入を得ている。

平日の仕事は辞め、子どもと一緒にいる時間が多くなった。子どもは小学5年生になって、友達との時間が増え、親がいつもいる安心感からか、精神面も安定してきている。お互いに良い結果となった。収入の面では決して楽とは言えないが、バランスがとれ、自分自身の顔つきも穏やかになった。母親の気持ちを感じ取ることで、子どもが生き生きしてくれるようになった。母親が仕事をしている姿を見せることによって子ども強くなってきたと思う。最近では、「お母さん、僕は大丈夫だよ！」と外に送り出してくれるようになったことに感激している。

【補足説明】 在宅ワーカーとして最初の仕事は、データエントリーから開始したが、最初の仕事は不安定で、週のうち、数時間程度、1件あたりの単価も希望以下の仕事となった。

在宅就業支援事業の中で、訓練の経験を生かし、「在宅トレーナー」の業務を生み出し、他者を指導する仕事を提供した。

在宅トレーナーも本事業の期間に限定されるが、今後は、パソコン指導でも仕事ができるようになることが期待される。

### 【今後の希望】

今後、可能であれば、在宅ワークで生計を立てるぐらいになりたいと考えている。「起業」という形も可能性を考えている。子どもも成長し、外での仕事の可能性も広がっている。この事業を通じて自分自信が成長できたことを実感している。

## 事例2 40代 女性（ひとり親） 子ども2人（訓練開始時 小・中学生各1人）

### 【訓練開始前の生活状況】

在宅での単純な入力業務と、観光ホテルの夜間フロントのアルバイトの2つの仕事をしてきた。息子2人は、留守番ができる年齢ではあったものの、なんとなく情緒不安定の様子があり、子育てと仕事の両立の難しさを感じるとともに、仕事を続けていくことへの漠然とした不安を感じ、悩んでもいた。

### 【訓練への参加】

北海道新聞の記事で事業のことを知り、応募した。希望者全員が受けられるものではなく競争率が高かったので、1期生としての参加が決定した時は、本当に嬉しかった。訓練がつらいと感じたときは、当選の知らせを受けたときの喜びを思い出し、「私は恵まれている。受けてくても受けられなかった人がたくさんいる」と自分に言い聞かせ、無事に訓練を終えることができたと思っている。

### 【訓練で得たこと】

訓練開始前は、仕事をしながら長期にわたる訓練についていけるのかという不安と、絶対に挫折したくないという思いが入り混じっていた。また、在宅での訓練のため、横のつながりがなく、孤独な訓練になるのではないかというイメージがあった。しかし、毎日のメールを通じて同じチームの訓練生の状況を知ることができ、受講前に不安を感じていた孤独を感じるということはなかった。

基礎訓練（6ヵ月）を経て、OJTにも参加できる応用訓練（10ヵ月）へと進み、「サイト更新」「データエントリー」「電子書籍」「音声起こし」を受講することができた。

実際に訓練が始まってみると、内容は安易なものではなく、基礎をしっかりと学びつつ応用訓練・OJTへと段階を引き上げてスキルアップしていく必要があり、自分の得意な分野と不得意な分野で、かなり進行に差がでた。提供される課題をこなしていくことで無理なく技術や知識を習得できる優れたプログラムであったこと、仕事を立て込んだときの時間管理が大変だった以外は、自分のがんばり次第についていけない内容ではなかった。

また、

それよりも、経験のない業務を仕事として受けるOJTの機会を得たことで、「経験あり」の領域に入ることができた分野がいくつもあり、自分にとっての大きな転機になったと感

じている。それまで人ごとであった「スキルアップ」という言葉を、自分のものとして実感できたのは本当に楽しく、また貴重な体験となった。

【補足説明】事業の開始当初より、時間管理が困難な受講者対応として提出の促しや繰り返しの提出期限周知を行った。また、対応が厳しいと思われる受講者に関しては、個別に提出期限を設けるなど、無理なく課題に取り組めるように配慮した。選択したコースに無理があると感じた受講生については中途でのコース変更を行うなど、可能な限り訓練を続けられるような仕組みづくりに取り組んだ。

### 【在宅ワーク開始後】

まだ子供が小さく、自宅で働く方法を模索していたので、「在宅ワークサポートセンター」への登録を行った。出産で退職するまでデータ入力の仕事をしていたが、興味はあっても経験することができなかった「テープ起こし」「電子書籍作成」「WEB サイト更新」の訓練は実に有意義なもので、中でもテープ起こしは、比較的良い報酬を得られる仕事として受注することができている。また、単発ではあるがサイト更新も受注することができ、訓練前には考えられなかった状況に感謝するばかりだ。

内職は「家事の合間の余った時間を有効に活用できる」といった宣伝を見かけるが、全く違うと感じている。継続して仕事を得るためには、クライアントの求める納品物を納期までに納めることが最優先であり、業務依頼を受けた段階で、瞬間的に自分のスキルと業務内容から所要時間を割り出すといった作業は、会社員の時にはない緊張と責任を感じている。この緊張を、マイナスではなく喜びと感じるようであれば、在宅ワーカーは難しだいだろうと思う。

今後の課題の一つとして、生活の中でオンとオフの切り替えがうまくできず、気づくともいつもパソコンの前で作業という状態のため、もう少しメリハリのある生活ができるようにしたいと考えている。十数年前、本当にわずかな収入から始まった在宅ワークだが、現在は複数のクライアントから業務依頼を受けるようになり、生活ができるようになってきた。訓練で新しい分野の業務も受注できるようになり、チームで仕事をするということへの可能性も感じている。

【補足説明】在宅ワーカーへの発注方法として、スキルをそれほど必要としないものに関しては、ほぼ全員に周知して、募集している。また、テープ起こしやDTPなど、ある程度のスキルが伴う業務に関しては、応用訓練やOJTでの実績を踏まえて、経験者を対象として個別に打診することで品質を確保できるよう努めている。

### 【今後の希望】

ようやく子育てがひと段落し、在宅ワーカーとしてもう一つ階段を上がるにはどうしたら良いのかと考えている。忙しくしているとはいえ、常に母親が家にいるということは、やんちゃな息子たちにとっては良いことだと思う。子供たちも高校生と中学生になり、私が外に働きに出ても問題はない年齢となったが、今回の訓練という体験を経て在宅ワークを天職だと思っているので、スキルアップを図りながら今後も継続していきたい。

## 障がい者の在宅就業結果の事例

### 事例1 40代 女性（精神障がい者）

【訓練中】学習内容についてわからないことがあると、トレーナーに質問攻めにするようなことがあった。トレーナーからの解答により、疑問だった事を解決する、ということを経験してきた。そうしたやりとりが意欲向上につながり、訓練中に得た知識をさらに深め、力を試してみたいと思うようになった。訓練終了後、IT パスポート試験（国家試験）に取り組み受験。合格し、スキルアップにつながった。

応用訓練では、Web系のコースを中心に受講した。

【在宅ワークの状況】在宅ワーカーとなったのち、模試採点業務を中心に受注した。在住している地域の仕事の紹介、依頼を受けるようになった。その際は、企業へ赴き、作業方法などの確認や疑問を解決しながら進め、業務を遂行している。これも期間中に得た知識やトレーナーとのやり取りの経験があってこその実績だ。

【解説】地域のサブセンター：北海道をいくつかのブロックに分け、地域に密着した業務開拓にあたっている。どこにいても仕事ができるというIT活用業務もあるが、地域密着で「顔が見える」業務開拓も効果的ではないかとの仮説からサブセンターを置いた。

### 事例2 50代 男性（身体障がい者）

【訓練中】応用訓練では、レセプト入力、会計業務、Web画像などを経験。

【在宅ワークの状況】応用訓練（OJT）で体験したレセプト入力に従事していた。訓練以前の仕事経験も活かして、採点業務の難しい高校受験模試採点に従事し、高い評価を得た。現在、その業務の一環として、採点チームのリーダーを任されるようになり、事前に問題文、採点基準の確認をし、一般採点者がスムーズに採点を行えるよう企業とやりとりをしている。

家庭環境や自分の障がいもあり、外に出て仕事をするのが難しいため、在宅での仕事が自分にはあっていると思い、さらに業務の幅を広げようと、訓練を通して養われたチャレンジ精神を活かして、現在、音声起こし業務にも積極的に取り組んでいる。

### 事例3 20代 女性（身体障がい者）

【訓練中】 応用訓練では、4か月のDTP（Desktop Publishing）コースを受講した。学習内容が多く、かなり苦勞したが、DTPコースを終え、他の応用訓練のコースに移ったあと、DTPのOJTを継続した。

【在宅ワークの状況】 DTPのソフトは、センターから貸し出しているもので、特定の業務にしか活用できないことになっている。そこで、現在の業務以外の業務にも対応できるように、日々勉強し、Photoshopの使用を習得した。現在は、同様の他の業務の連絡があった時もすぐに対応している。

障がいのため、外に出て仕事をするのが難しいので、これからも多くの件数をこなしてスキルを高め、どのような業務がきてもすぐに対応できるようにしていきたい、と語っている。

### 事例4 20代 女性（知的障がい者）

中程度の知的障がいがある女性で、これまで、母親の言葉に従って生活してきた。高校卒業後、何かやりたいと思っても、母親の許可が得られず、あきらめてきた。母親は、本人のことを心配して、「失敗させたくない」「できないことをさせたくない」という思いがあったと考えられる。

本事業への参加についても、当初は母親の反対があったが、在宅で学習できるからと説得し、参加に至った。

訓練中は、言葉のみで理解をすることに、かなり苦勞をしてきた。何度か挫折しそうになったが、障がい者支援の専門家が何度か接触し、意欲維持の支援をしてきた。

訓練終了後、母親の反対もあって、在宅ワーカー登録を見送った。しかし、本人は在宅での仕事をあきらめきれず、母親と話し合い、後日になって、当会の在宅ワークサポートセンターとの連携がある、障がい者就労支援をしている事業所の在宅ワーカーとして登録し、仕事を開始した。

### 事例5 30代 男性（身体障がい者）

応用訓練で、Web製作を4ヵ月受講した。かなりのスキルが身に付き、ある特例会社の在宅雇用求人に応募した。実技試験は、訓練を受講していたことから免除になり、面接試験を受け、合格。在宅ワーカーとなったところで、訓練を修了（卒業）し、業務についている。（2事例あり）